

# 65周年記念式典プログラム

## 65周年記念式典プログラム

1. 礼拝 礼拝堂にて 16:00~

2012年4月28日午後4時

霊南坂教会礼拝堂

2. 式典 礼拝堂にて 16:40~

① 写真撮影 (現役スカウト及びスカウトクラブ)

② 小劇 『霊南坂スカウトはじめて物語』

③ 旗の贈呈 (移動)

3. 祝会 ホール 17:30~



19:00 終了

ボーイスカウト東京港第一団  
ガールスカウト東京都第四団  
霊南坂スカウトクラブ



## 65周年記念式典プログラム

プログラム1

霊南坂スカウト創立65周年記念礼拝

- |       |                          |          |
|-------|--------------------------|----------|
| 1. 礼拝 | 礼拝堂にて                    | 16:00~   |
| 2. 式典 | 礼拝堂にて                    | 16:40~   |
|       | ① 写真撮影 (現役スカウト及びスカウトクラブ) |          |
|       | ② 小劇場『霊南坂スカウトはじめて物語』     |          |
|       | ③ 旗の儀式 (移動)              |          |
| 3. 祝会 | ホールにて                    | 17:30~   |
|       |                          | 19:00 終了 |





プログラム 1

霊南坂スカウト創立 65 周年記念礼拝

ぜんそう

さんびか 讚美歌Ⅱ-189「丘の上の教会へ」<sup>おか うえ きょうかい</sup> みんな

せいしよ しかいしや

ルカによる福音書<sup>ふくいんしょ</sup>24章<sup>しょう</sup>28〜32節<sup>せつ</sup>（新161 ページ）<sup>しん</sup>

おいのり しかいしや

おはなし 「心<sup>こころ</sup>燃<sup>も</sup>えたあの日<sup>ひ</sup>」  
よしおかでんどうし

さんびか 412「昔<sup>むかし</sup>主<sup>しゅ</sup>イエスの」 みんな

けんきん

さんびか 64「まごころこめ」 みんな

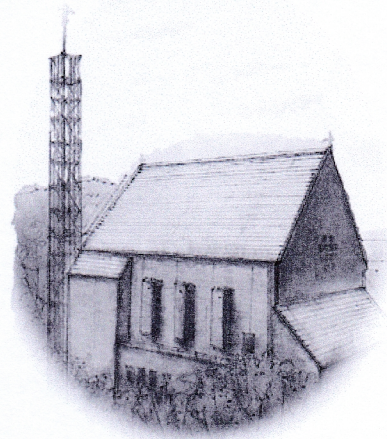
おいのり

しゅのいのり プログラムにいんさつされています みんな

さんびか 24「たたえよ、主<sup>しゅ</sup>の民<sup>たみ</sup>」 みんな

しゅくとう おしかわさちお しゅにんぼくし

こうそう





しゅのいのり

てんにましますわれらのちちよ  
ねがわくはみなをあがめさせたまえ  
みくにをきたらせたまえ  
みこころのてんになるごとく  
ちにもなさせたまえ  
われらのにちようのかてを  
きょうもあたえたまえ。  
われらにつみをおかすものを  
われらがゆるすごとく  
われらのつみをもゆるしたまえ  
われらをこころみにあわせず  
あくよりすくいだしたまえ  
くにとちからとさかえとは  
かぎりなくなんじのものなればなり  
アーメン





LITTLE BROWN CHURCH  
 曲: William S. Pitts, 1830-  
 (編曲) 編集委員会, 1967

詞: 坂田寛夫, 1967

♩=112 おかのうえのきょうかいへのぼるいしだたみはる  
 (おりかえし)  
 はさくらのはなびらてのひらにうけてのぼるほら  
 さやかにやさしくベルはなりわた  
 ティンティン ティンティン ティンティン ティンティン ティンティン  
 ティンティン ああ なつかしいきょうかいへきょうこそみんなで帰ろう

詩篇 84

1  
 丘の上の<sup>きょうかい</sup>教会へのぼる石だたみ、  
 春は桜のはなびら、  
 手のひらにうけてのぼる。

(おりかえし)  
 (ほら、ティンティン、ティンティン・・・)  
 さやかにやさしく  
 ベルは鳴りわたる。  
 ああ、なつかしい<sup>きょうかい</sup>教会へ  
 きょうこそみんなで帰ろう。

2  
 夏はみどりさわやか<sup>かげ</sup>陰も涼しくて、  
 高く口笛吹いては、  
 肩<sup>かた</sup>組み合わせてのぼる。

3  
 丘の上を望めば 空に羊ぐも、  
 秋の陽<sup>ひかり</sup>をあびてひかる、  
 煉瓦<sup>れんが</sup>の塔<sup>とう</sup>の十字架。

4  
 雪<sup>ゆき</sup>の降る夜みんなで 歌声あわせた、  
 小さい<sup>こ</sup>ときの思い出が、  
 いまこころに鳴りひびく。



28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていきますから」と言っつて、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してください」と語り合った。わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。



詞：白木康，1896-1985

TRIUMPH NO 2  
曲：W. H. Vibbert, 1839-?

むかし主イエスのまきたまいし、  
 いともちいささいのちのたね。  
 めばえそだちて地のはてまで、  
 そのえだをはるきとはなりぬ。アーメン。

(♩=104)

- 1 昔主イエスの 蒔きたまいし、  
 いとも小さき いのちの種。  
 芽生え育ちて 地の果てまで、  
 その枝を張る 樹とはなりぬ。
- 2 歴史のながれ 旧きものを、  
 掃らぬ過去へ 押しやる間に、  
 主イエスの建てし 愛の国は、  
 民より民へ ひろがりゆく。
- 3 時代の風は 吹きたけりて、  
 思想の波は 騒ぎたてど、  
 すべてのものを 越えてすすむ  
 主イエスの国は 永久に栄えん。
- 4 父なる神よ、み名によりて  
 世界の民を ひとつとなし、  
 地の果てまでも み国とする  
 約束を、いま 果たしたまえ。

マコ1:30 詩67:2-6 ヤコ2:5

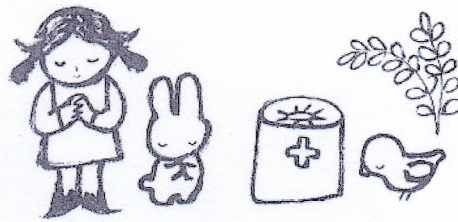


たたえよ、しゅのため

## 2. まごころこめ

まごころこめ ささげます  
このたからと このわたし  
しゅなる かみよ

まごころこめ ささげます、  
このたからと このわたし。  
しゅ <sup>かみ</sup>  
主なる神よ。



▶ 礼拝 奉献

詞：『日曜学校讃美歌』(1950)より 曲：不詳

♩ = 88



# たたえよ、しゆのたみ

The image shows two staves of musical notation in G major (one sharp). The first staff contains the melody for the first line of lyrics, and the second staff contains the melody for the second line. The notes are simple, mostly quarter and eighth notes, with a key signature of one sharp (F#).

た たえよしゆの た み み つかいと とも に  
め ぐみにあ ふ れ る ち ちこせいれい を

たたえよ、<sup>しゆ たみ</sup>主の民、みつかいととも、  
めぐみにあふれる <sup>ちち こ せいれい</sup>父・子・聖霊を。



- プログラム2 <sup>しゅうねんきねんしゃしんさつえい</sup> 65周年記念写真撮影  
<sup>れいなんざかきょうかいきょうしょく</sup> ・霊南坂教会教職  
<sup>げんえき</sup> ・現役スカウトとリーダー  
<sup>れいなんざか</sup> ・霊南坂スカウトクラブ

プログラム3 <sup>しきてん</sup> 式典

① <sup>しょうげきじょう</sup> 小劇場 『<sup>れいなんざか</sup> 霊南坂スカウトはじめて <sup>ものがたり</sup> 物語』

マーティン・ウィリアムズ役	五十嵐	大祐
今井譲二役	小林	資英
小崎道雄役	小崎	信
小崎朝子役	小崎	安子
スカウトクラブから	杉原	正
	永橋	牧子
現役リーダーから	光野	実江

② セレモニー

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| 1. 「やくそく」と「ちかい」 | 各部門 |
| 2. あしあとをたどって    | 全部門 |

プログラム4 祝会

1. 食前感謝の祈り
2. 会食
3. 5年間の記録ビデオ上映
4. 団歌
5. 閉会の祈り



## 霊南坂スカウト団歌

1. <sup>かみ</sup>神と<sup>くに</sup>国とに<sup>まこと</sup>誠を<sup>つ</sup>尽くし  
おきて<sup>まも</sup>てを<sup>ひと</sup>守り<sup>たす</sup>人を助ける  
ぼくたちスカウトの<sup>ちい</sup>小さな<sup>あい</sup>愛のわざが  
この<sup>よ</sup>世に<sup>へいわ</sup>平和をもたらすのだ

(くりかえし)

<sup>れ</sup>歴史<sup>しか</sup>輝く<sup>やく</sup>霊南坂に<sup>れいなんざか</sup>  
<sup>た</sup>そびえ<sup>しょうろう</sup>立つ<sup>あお</sup>鐘楼<sup>すす</sup> 仰いで進もう

2. <sup>からだ</sup>体を<sup>こころ</sup>きたえ<sup>こころ</sup>心をみ<sup>み</sup>がき  
<sup>とく</sup>徳を<sup>やしな</sup>養いつねにそ<sup>な</sup>え<sup>え</sup>る  
ぼくたちスカウトの<sup>ひ</sup>日ごろ<sup>はげむ</sup>励むわざが  
この<sup>よ</sup>世に<sup>ひかり</sup>光をかかげるのだ

(くりかえし)



## Footprints

One night a man had a dream. He dreamed he was walking along the beach with the Lord. □ Across the sky flashed scenes from his life. □ For each scene, he noticed two sets of footprints in the sand; one belonging to him, and the other to the Lord.

When the last scene of my life flashed before him, he looked back at the footprints in the sand. He noticed that many times along the path of his life there was only one set of footprints. He also noticed that it happened at the very lowest and saddest times in his life.

This really bothered him and he questioned the Lord about it. "Lord, you said that once I decided to follow You, □ You would walk with me all the way. □ But have noticed that during the most troublesome times in my life, there is only one set of footprints. □ I don't understand why when I needed You most You would leave me."

The Lord replied, "My precious, precious child, □ I love you and would never leave you □ n. During your times of trial and suffering, □ when you see only one set of footprints □ it, it was then that I carried you."

*Author Unknown*



## あしあと

る晩、男は夢をみていた。夢の中で彼は、神様と並んで砂浜を歩いてた。空には、彼のこれまでの人生が映し出されては消えていった。そどの場面にも、ふたつの足跡が砂の上に残されていた。ひとつは彼身のもので、もうひとつは神様のものだった。

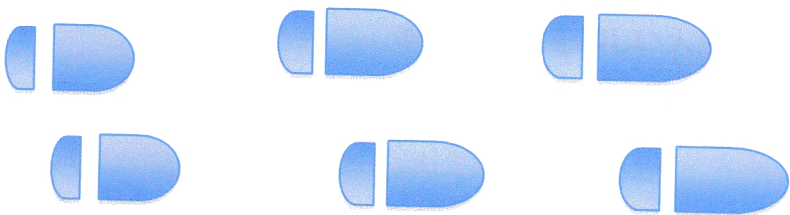
しがたの人生の場面ですら彼の前に現れ、そして彼は今までの人生の砂上の足跡をふりかえり眺めてみた。すると彼の人生の道程には、ひとつ足跡しか残っていないところが、いくつもあることに気がついた。しかしそれは、彼の人生の中でももっともつらくて悲しいときに起きているのだった。

っかり悩んでしまった彼は、神にそのことをたずねてみた。「神よ、私あなたに従って生きると決めたとき、あなたはずっと私とともに歩いてくださるとおっしゃたではないですか。なのに、私の人生でもっとも困難中にあった時には、ひとつの足跡しか残っていないではありませんか。あなたがあなたをもっとも必要としたときに、なぜあなたは私を見捨てられたのですか。」

様は応えられた。「おお。愛しい 愛しい我が子よ。私はあなたを愛している。私はあなたをけっして見捨てたりはしない。

あなたが試練と苦しみにいた時に、ひとつの足跡しか残されていなかったよ、その時、わたしがあなたを抱きかかえていたからだよ。」

作者不詳／訳：鈴木充代





テーマ「あしあと」過去から未来へ

65年間の歴史を感じつつ、「未来へ」あしあとをつけ続けていくために…

これからのスカウト活動が、  
日々の生活が、  
今までと変わらず、そしてこれからも、  
いつも神様に守られ、  
そしてよりよい仲間と共に、  
時には助けられ、時には助け、  
悔いの無い『あしあと』をのこせますように、  
幸せな人生を楽しみ人生をあゆめますように…

スカウトひとりひとりに願いをこめて